



やさしさの輪をひろげる

□ 11月28日に開催された養父市人権フェスティバルで、本校3年生の_____さんが「やさしさの輪をひろげる」という題で人権作文を発表してくれました。きっと何度も練習して当日に臨んだのでしょう。ゆっくり、はっきりと自分の考えを伝える姿がとてもすばらしく、心から感心しました。以下、_____さんの人権作文の一部を紹介します。

- ・ 私は友だちと遊ぶことが大好きです。
- ・ “いっしょにおにごっこしよう。”“_____ちゃんもいっしょにやる？”と友だちに声をかけてもらうと、とてもうれしい気持ちになります。
- ・ 友だちからやさしくしてもらった経験があるからこそ、私も「やさしくしたい」と思うようになりました。やさしくしてもらった気持ちを今度は自分から友だちに返していきたい、そんな気持ちになります。
- ・ やさしい心は広がっていくものだと思います。1人のやさしい行動やその気持ちが、また次の人につながっていきます。みんなでやさしさの輪を作つていけば、学校も家族もすてきな場所になると思います。私は「みんながだれにでもやさしい言葉をかけられる学校」になつたらいいなと思います。そのために、まずは私がやさしさを広げていきたいです。



たくさんの人の前で堂々と話せました

□ 11月の全校朝会では、小泉吉宏さんの「1秒の言葉」という詩を紹介しました。かつて、SEIKOのCMでも使われていた詩なので、ご存知の方も多いかもしれません。たった1秒で、相手に“ときめき”や“勇気”や“優しさ”を届けられる言葉がある—そんな内容の詩です。子どもたちには、この詩にならい“よろこびを生み出す1秒の言葉”を募集しました。たくさんすてきな言葉が寄せられ、現在、校長室前に掲示しています。その一部を紹介します。

- ・「だいじょうぶ」--- この1秒ほどの短い言葉で ほっとするし、安心する (5年生)
- ・「いってらっしゃい」--- この1秒ほどの短い言葉で 家族のぬくもりを感じる(3年生)
- ・「やさしいね」--- この1秒ほどの短い言葉で すてきな自分になれたんだって思える (3年生)
- ・「やあ！」--- この1秒ほどの短い言葉で あいさつされるってうれしいし、元気が出る (6年生)

□ _____さんの「やさしさの輪をひろげる」という人権作文と、全校生が寄せてくれた「よろこびを生み出す1秒の言葉」は、深くつながっていると感じています。作文の中に出でた「いっしょにしよう」「いっしょにやる？」という言葉も、まさに1秒で相手を笑顔にできる言葉です。

□ 言葉を使って自分の気持ちを伝えるのは人間ならではの力です。最も人間らしい道具は“言葉”なのかもしれません。やさしさは、特別なことではなく、今日・今すぐ・誰にでもできることです。声をかける、あいさつする、その1秒の積み重ねが、学校全体の空気をあたたかく変えていきます。一人ひとりの1秒の言葉から、広谷小にも大きな“やさしさの輪”が広がっていくことを願っています。



校長室前の掲示

第2回学校運営協議会を開催しました

11月27日には、第2回学校運営協議会を開催しました。全学年の授業を参観いただいた後、学校運営に関するご意見を頂戴いたしました。

【授業参観の感想】

- ・全体的に落ち着いていて、よく話が聞けている。
- ・元気いっぱい、楽しそうに活動。／大きな歌声が聞けた。／英会話に親しむ姿が見られた。／難しい内容であったが子どもたちがしっかり考えていた。
- ・教員の話をよく聞き、一人ひとりがしっかりルールを守っていた。／メリハリのある授業であった。／テンポがよく工夫された授業であった。
- ・場面に合わせてタブレットを使わせていました。使うことが当たり前の時代になったと感じる。／便利になる一方でSNS問題等、危険な面もあり、子どもたちは難しい状況に置かれていると感じる。
- ・一人ひとりの子どもの行動に、教員が臨機応変に対応していることがよくわかった。
- ・教室の大きさについては一クラス20人ぐらいが最適であるように感じる。

【協議における意見】

- ・言葉遣いがきついと感じる子どもがいる。SNSの影響により、その界隈で使用されている言葉が横行しているのでは。
- ・いじめの認知について、表面化していないものもあるのかもしれない。親でもSNSでどのように友だちとつながっているのか知らないことが多いのではないか。
- ・体験学習が増えた。学校でのことよく伝えてくれるようになり、体験することの大切さを感じている。
- ・高齢者と関わる機会が減っている中、ふるさと学習を通して地域の人とふれあう取組はとても良い。地域のことを学んだり、地域の行事に参加してもらえるのはうれしいことだ。
- ・スクールボランティアの活動をさらに充実させたい。

本紙でもふれている通り、子どもたちの「言葉」のありようは、学校としても課題の一つだと捉えています。人権教育の推進により、言葉の大切さを引き続き伝えていきます。インターネットの利活用については、PTA教育講演会でも講演いただいたように、学校での指導と、ご家庭でのルールづくり等を連携させていくことが大事だと考えています。今年度、ふるさと学習については地域のご協力を得て、大きく前進しました。引き続き「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて推進していきます。

■ 「人と防災未来センター」で防災学習 【5年生】 11月28日



「家屋の構造による揺れの違い」の実験を見せていただきました

バスで神戸まで出かけて、阪神・淡路大震災の災害の様子と復興の歩みについて学びました。映像と音響で、発生の瞬間の揺れや破壊を体感し、子どもたちは大きな衝撃を受けていました。実際に阪神淡路大震災を経験された方からのお話も聞きました。「一番欲しかったのは水です。日頃から水の備えを大事にしてください。」と、大切な教訓を伝えていただきました。5年生にとっては、当時の人々の苦しみや悲しみを知るだけでなく、支え合いながら立ち向かった姿に心を動かされ、災害に備えることの大切さを実感する機会となりました。

■ 大庄屋記念館見学 【3年生】 12月5日

電気やガス、水道のなかった時代に、人々はどのように暮らしていたのでしょうか。この大庄屋記念館の見学では、昔の人たちの暮らしには「快適に暮らすための知恵」がたくさんつまっていたことがわかりました。昔の人々の知恵とくふうを知り、今の自分たちの暮らしとのつながりに気づいた社会見学でした。



「いろいろのある居間は誰がどこに座るか決まっていたんだよ」